

【万関瀬戸航路】概要

- 対馬島のほぼ中央に位置し、対馬東西岸を往来する漁船や小型貨物船等の航路として、また韓国と北部九州方面を結ぶ船舶の要衝として重要な役割を果たしている。1974年7月に港湾法に基づく開発保全航路に指定。
- 旧海軍が1900年に開削してできた航路を1970年から国が拡幅整備に着手し、1975年3月に幅員40m、水深-4.5m、700D/W級貨物船が航行可能な航路として完成。現在は国が航路の保全業務を実施。
- 日本海海戦において重要な役割を担った対馬有数の観光スポット。これを跨ぐ万関橋が上島と下島を結ぶ唯一の陸路であることから、多くの観光客が訪問。

位置図



【旧海軍による掘削前】



万関瀬戸を航行する船舶



【万関瀬戸航路】「海道見守り隊」

○万関瀬戸航路において、官民協働による効果的かつ効率的な航路の保全等を図るとともに、開発保全航路としての保全の重要性等について効果的な広報・啓発を行うため、H30.11民間事業者等と以下の内容の協定を締結した。

- ・開発保全航路の保全に関する情報提供
- ・開発保全航路の歴史的意義や重要性、国土交通省による保全活動等に関する広報・啓発活動に関する協力

【活動内容】

- ① 開発保全航路に係る保全管理施設（法面、防護柵、案内看板、管理カメラ等）の異常を発見した際、国土交通省に情報提供を行う。
- ② 開発保全航路の区域における無許可の土砂採取・処分や水域の占有等が発見した際、国土交通省に情報提供を行う。
- ③ 万関瀬戸航路を観光資源として活用する際、既存の説明内容に加え、開発保全航路としての歴史的意義や重要性、国土交通省による現在の保全活動等に関して広報・啓発活動を行う。

【協定締結団体】

<p>対馬観光ガイドの会 やんこも</p> 	<p>対馬市</p> 	<p>対馬市市営渡海船 『うみさちひこ』</p>	<p>対馬エコツアー</p> 	<p>対馬カヤックス</p> 
<p>プロの観光ガイドや教職員OBなどが中心になって結成された対馬の観光ガイドの会</p>	<p>島民の足としての定期航路の運航に加え、浅茅湾周遊観光としての貸切や乗合遊覧を実施</p>	<p>対馬の中心に広がる穏やかな浅茅湾でのシーカヤック・ツーリングを提供。リピーターも多く、日本全国から体験のために多数の観光客が来島する。多人数の場合は両者共同で対応</p>		
				